

平成 21 年度 整形外科学術部会活動報告書

専門部会 整形外科 **部会長** 福林 徹

構成員 奥脇 透 三木英之 中前敦雄 小笠原一生

1. 膝前十字靭帯損傷予防に対する取り組み

従来の膝前十字靭帯(ACL)損傷予防DVD(女子バスケット、女子サッカー、テニス、スキー)に加えFIFAから提供を受けたFIFA 11+のDVD,ポスターをサッカー関係者に幅広く配布した。また国立スポーツ科学センター(JISS)の協力の下、ACL損傷での再受傷を予防する目的で「膝前十字靭帯の再受傷予防のためのトレーニング」をDVDとして作成し普及をはかった。

2. 日本におけるスポーツ外傷サーベイランスシステムの構築

本研究は日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会の3年間のプロジェクト研究として平成22年4月より活動を開始した。班員としては上記の整形外科部会の構成員のほか、加藤、中堀、津田、清水、古谷、藤谷、松田の各氏がプロジェクト構成員として本研究を担当することになり、整形外科学術部会はこのプロジェクト研究とジョイント研究を行った。

本研究の骨子は以下のごとくである

1) 日本での全国スポーツ外傷・障害統計の分析

- ・日本スポーツ振興センターからの協力
- ・スポーツ安全協会からの協力

2) 各競技におけるスポーツ外傷(障害)発生調査の分析

サッカー: Jリーグ, Lリーグ, Fリーグ

ラグビー: トップリーグ

女子バスケットリーグ: WBJL

アメリカンフットボール: 実業団リーグ, 大学リーグ

3) ジュニア, 女子選手に対しての外傷予防プログラムを用いて介入研究

サッカー: 男子6チーム, 女子4チームにFIFA 11+プログラムを用いての介入

バスケット: 大学, 高校女子バスケットチームへの介入

本プロジェクトは1年目には各スポーツ種目による日本での外傷・障害の発生頻度を明らかにする事を主たる目的とする。2年目以降は本目的に加え、ジュニアに対しての介入研究を行い、外傷・障害予防プログラムの有用性についての検討を合わせて行う。